

リジン脱炭酸陰性の *Salmonella enteritidis* による食中毒事例について

小石智和¹, 伊藤千恵¹, 原田保¹, 山野親逸¹, 丸岡捷治¹, 竹上修平²

A case of food- born disease by *Salmonella* Enteritidis with no activity of lysine decarboxylase

Tomokazu KOISHI, Chie ITO, Tamotsu HARADA, Chikaitzu YAMANO, Shoji MARUOKA
Syuhei TAKEGAMI

Abstract : We report here a case of food- born disease by *S. Enteritidis*, which was detected in feces from the patients, the licensed cook, and in the stored meals. In characterizing an isolated *S. Enteritidis*, we noted that it lacked lysine decarboxylase activity. Such *Salmonella* species are not common and first detected in Kyoto City. This experience taught us that promptly identifying the specific biological characteristics of bacteria is important for the speedy examination at the outbreak of food- born diseases.

Key words : サルモネラ エンテリティディス *Salmonella enteritidis*, リジン脱炭酸 Lysine decarboxylase

I はじめに

平成15年8月23, 24日に伏見区内の4カ所で行われた地蔵盆の参加者が下痢, 嘔吐等の食中毒症状を呈していると保健所に連絡があった。調査の結果, ある弁当調製業者が調理した「ちらし寿司」が共通食品で, 約250食が提供され, 有症者が173名存在することが判明した。

II 期間及び対象

8月26日から9月4日にかけて採取された有症者や調理従事者の便及び検食等の104検体について細菌性食中毒菌の検査を行った。

III 検査方法

1. サルモネラ菌の検査は DHL, SS 培地に直接塗抹し, 同時にラパポート培地で増菌培養後, DHL, SS 培地に塗抹した。疑わしい集落を釣菌し, TSI, LIM, VP, SIM, シモンズクエン酸等の確認培地に接種して生化学的性状を調べた。TSI, VP, SIM, シモンズクエン酸の培地ではサルモネラ菌の性状を示したが, LIM 培地ではリジン脱炭酸陰性の菌が多数検出されたので, 確認のために Vitek による同定試験を行った。
2. 市販の診断用血清を用いて O 抗原, H 抗原を調べ *S. enteritidis* と決定した。
3. PFGE の検査は調査研究部門に依頼した。

4. その他の細菌検査については食品衛生検査指針¹⁾に準じた方法で行った。

IV 検査結果

検査結果は表1のとおりである。有症者の便37検体, 調理従事者の便3検体, 検食及び残品10検体の計50検体から *S. enteritidis* が検出された。さらに, 病院で検出された菌株3件も含めた53検体の PFGE の結果は全て同じであった。なお, *S. enteritidis* 以外の食中毒菌は検出されなかった。

表1 検査結果 (S.E陽性数)

	検体数	S.E陽性数
患者便	67	37
調理従事者便	3	3
施設ふきとり	11	0
調理従事者手指ふきとり	3	0
検食	20	10
合計	104	50

V 考察

有症者や調理従事者便及び共通食である「ちらし寿司」の検食や残品の多くから *S. enteritidis* が検出されたことから, 本事例は「ちらし寿司」を原因食とする *S. enteritidis* による食中毒と断定された。しかしながら, *S. enteritidis* の汚染源については特定するには至らなかった。さらに, 今回分離された *S. enteritidis* はリジン脱炭酸が陰性の *S. enteritidis* と断定された。サルモネラ菌を同定する際に

¹ 京都市衛生公害研究所 臨床部門

² 京都市衛生公害研究所 調査研究部門

リジン脱炭酸は重要な性状のひとつであり、一部の血清型を除き陽性反応を示す。この様にリジン脱炭酸陰性の *S. enteritidis* による食中毒事例は非常に稀な発生であり、本市においても初めてのことであった。このことから、今後の日常検査においても食中毒菌の性状を把握したうえで、典型的な性状を示さない菌に対しても引き続き注意深くかつ迅速に検査を行っていく必要がある。

Ⅵ 文献

- 1) 厚生省生活衛生局監修：食品衛生検査指針微生物編，108-117，（社）日本食品衛生協会（1990）